

第112回 地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会 会議録

| | |
|--------------|---|
| 日時 | 令和7年1月26日(日) 10:15~17:45 |
| 開催場所 | 横浜市役所アトリウム |
| 出席者 【敬称略】 | 部会委員) 杉崎部会長、朝比奈委員、植松委員、川原委員、後藤委員、鳥海委員、肥後委員、松村委員 事務局) 横浜市：古檜山、村瀬、安藤、石田、今村、市川、道明 市民セクターよこはま：加世田、伊吾田、尾崎 横浜市住宅供給公社：岡部、田口、佐藤、土屋、高橋 |
| 開催形態 | 公開 (会場での観覧及びYouTubeでのLIVE配信) |
| 議題 | 令和6年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテスト 1 開会 2 整備提案の発表 3 審査員による整備提案の発表を踏まえたポイント整理 4 審査方法の説明 5 公開議論、質疑 6 公開投票及び結果発表 7 講評 |
| 決定事項 | 10件の提案のうち、以下の5件の提案を整備助成対象提案として選考 【整備提案名】<提案グループ名> 1 【いの池を中心とした地域資源循環システムの再生と維持】 <師岡熊野神社「いの池」愛護会> (港北区) 2 【あおぞら広場】 <あおぞら広場をつくる会> (金沢区) 3 【シェアキッチンを備えた多世代交流拠点の整備】 <二つ台みーとみーとPJ> (保土ヶ谷区) 4 【懐かしい街の記憶を次世代へと繋ぐ拠点】 <パレット境木ベース運営委員会> (保土ヶ谷区) 5 【熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト】 <熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト実行委員会> (港北区) 令和7年度1次コンテスト免除提案として、次の1件を選考 ・【歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり】 <生麦事件参考館リユースプロジェクト> (鶴見区) |
| 審査基準 | 1 創意工夫 ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ及びデザインへの配慮 ・整備工事における地域での費用や労力の負担方法などの工夫 ・整備した施設の維持管理・運営の実施方法などの工夫 2 実現性 |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地域（地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等）での合意形成 ・関係機関との調整 ・整備する施設の維持管理・運営計画 <p>3 公共性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度 <p>4 費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備の規模（数量）と整備による効果の妥当性 ・コスト削減の工夫 <p>5 地域まちづくりへの発展性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備をきっかけに地域のコミュニティが広がる、又は深まる可能性 ・整備をきっかけに地域のまちづくり活動が活発化する可能性 ・他の地域によい影響を与える可能性 |
|--|--|

選考結果

| 選考団体（投票数順） | 委員講評 |
|---|---|
| <p>【提案名】 シェアキッチンを備えた多世代交流拠点の整備</p> <p>【提案グループ名】 二つ台みーとみーとPJ</p> <p>【投票数】 16 票</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題となっている空き家・空き店舗の問題に取り組み、さらに塾という子どもたちにとって大事な居場所の空いている時間や空間を地域に開くことで、多世代交流を生み出す試みが良かった。 ・もともとの建物の間口を活かした扉の開け方の工夫も良かった。 |
| <p>【提案名】 熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト</p> <p>【提案グループ名】 熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト実行委員会</p> <p>【投票数】 16 票</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・住宅街の中で周囲からどう見られているかを意識しながら場を作っており、住み開きのモデルになることを期待したい。 ・生活の延長として自然にまちづくりができることが理想だと思う。それが実現できそうな気がしているので、期待している。 |
| <p>【提案名】 いの池を中心とした地域資源循環システムの再生と維持</p> <p>【提案グループ名】 師岡熊野神社「いの池」愛護会</p> <p>【投票数】 15 票</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・水や土などの資源を循環させ、地域でいの池を守るこの意味についてより深く考えていただいたことが良かった。 ・同じ地域から2提案が出ていることもあり、資源循環についてもう一つのグループ（熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト実行委員会）とコラボレーションすると相乗効果が出るのではないかと。 |

| | |
|---|---|
| <p>【提案名】 懐かしい街の記憶を次世代へと繋ぐ拠点</p> <p>【提案グループ名】 パレット境木ベース運営委員会</p> <p>【投票数】 14 票</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地元から愛されていた場所をうまく活用している点が評価できた。たくさんの応援者がいて、これから盛り上がっていくことを期待している。 ・賑やかだった頃の街の記憶を、複数の人がハブになり繋ぐことで、今後もメンバーを増やし、力強い動きになることを期待したい。 |
| <p>【提案名】 あおぞら広場</p> <p>【提案グループ名】 あおぞら広場をつくる会</p> <p>【投票数】 11 票</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・既存の保育園の園庭を改修し、地域に開くという先進的な取組であるため、保育園の地域交流のモデルになるような取組を期待している。 ・1次コンテスト以降、すごく議論が尽くされてきたということがわかった。正解を最初から決めるわけではなく、探っていく姿勢が良かった。今後も試行錯誤しながらチャレンジを続けてほしい。 |
| <p>令和7年度1次コンテスト 免除提案グループ</p> | <p>委員講評</p> |
| <p>【提案名】 歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり</p> <p>【提案グループ名】 生麦事件参考館リユースプロジェクト</p> <p>【投票数】 10 票</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史資源や文化資源をコミュニティの拠点としていくことは難しいことが多いが、1次コンテストに比べ、若い世代も含めて様々な世代が増えており、提案場所だからこそ新しい人が参画できるという、今回のアイデアを活かして続けて行ってほしい。 ・取り組むテーマについてはとても応援したいと思った。こういう資料があるから、こういう展示空間を作りたいということがあれば、説得力のあるプランニングになったのではないかと思う。次の動きにとっても期待している。 |
| <p>資料</p> <p>(資料1) 令和6年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテスト整備提案集</p> | |